※下記「The Rikkyo Style」は、原則ルールとして扱い、指導教員の判断で別のスタイルを使用できるものとする。

The Rikkyo Style

（日本語で論文を執筆する場合）

立教大学大学院 異文化コミュニケーション研究科

2005 年 4 月作成
2006 年 4 月改正
2008 年 9 月改正
2009 年 4 月改正
2010 年 9 月改正
2011 年 10 月改正
2016 年 6 月改正
2021 年 7 月改正

参考文献リスト（Reference List）

原則として APA (American Psychological Association) Style に従う。詳しくは，Publication manual of the American Psychological Association（latest edition；最新版）を参照のこと。但し，日本語で執筆する場合には下記の要領を参考にし，不明の点は指導教授の指示に従うこと。

【単行本】

1. 基本形

日本語表記の場合，基本形式は以下の通り（括弧やピリオド，コロンなどの記号は全角を使用）。数字については，漢数字は全角，アラビア数字やローマ数字は半角とする。原則として副題にはコロン（：）を使うが，原著においてダッシュ（ ── ）が使われている場合には原著の表記に従う。ただし，英語および西欧語表記の場合，アルファベット文字，数字，括弧やピリオド，コロンなどの記号はすべて半角とする。

著者名（発行年）．『タイトル：副題』出版社.

日本語は明朝体, 英字は Times New Roman とし, 数字は半角アラビア数字とする。同一年内に複数の著書を発表している場合には，「2000a, 2000b, 2000c, …」というように，発表された順に年号の後にアルファベットを付す。未刊行（刊行予定）の書籍から引用する場合には，書誌情報の後に［未刊行］または［印刷中］と表記する。

野田研一（2003）．『交感と表象：ネイチャーライティングとは何か』松柏社.

大堀壽夫（2002）．『認知言語学』東京大学出版会.

2. 複数の著者

著者が複数の場合には，それぞれの氏名を全角中点「・」で区切って列挙する。著者名は 6 人まで全表記し，7 人以上いる場合には 7 人目以降を省略し「**ほか**」と表記する。

松本裕治・永田昌明・徳永健伸・影山太郎・斎藤洋典（2004）．『単語と辞書』岩波書店.

3. 編集された単行本

編集された著書についても基本形式は同じ。「編」「編著」などの表記は原則として原著に準じる。

編者名（編）（発行年）．『タイトル：副題』出版社.

山梨正明・有馬道子（編著）（2003）．『現代言語学の潮流』勁草書房.

4. 訳書

訳書を引用した場合には，訳書の書誌情報（著者名はカタカナ表記）を記した後に，全角大括弧［　］で原著の書誌情報を付す。原著の表記は APA Style に従う。基本形式は以下の通り。

著者名（発行年）．『タイトル：副題』（訳者名・訳）．出版社．［原著：Last Name, Initial. (Year). *Title: Subtitle.* Publisher］.

バイアー，O.（2003）．『ヨーハン・ゲオルク・ハーマン：根元的な啓蒙を目指して』（宮谷尚実・訳）．教文館．［原著 : Bayer, O. (1988). *Zeitgenosse im Widerspruch. Johann Georg Hamann als radikaler Aufklärer.* Piper］.

ソシュール，F. de.（1986）．『一般言語学講義』〔改版〕（小林英夫・訳）．岩波書店．［原著 : Saussure, F. de. (1916). *Cours de linguistique générale.* Payot］.

著者，訳者（監訳者を含む）が複数いる場合には，訳者を全角中点「・」で区切って並べる。7 人以上いる場合には 7 人目以降を省略し「ほか」と表記する。

レイコフ，G.・ジョンソン，M.（1986）．『レトリックと人生』（渡部昇一・楠瀬淳三・下谷和幸・訳）．大修館書店．［原著 : Lakoff, G., & Johnson, M. (1980). *Metaphors we live by.* University of Chicago Press］.

5. 単行本の中の 1 章

単行本（論文集，全集，叢書など）に収録されている論文（章）を引用する場合には以下の通り。著者と編者が同一の場合には編者名を省略する。

著者名（発行年）．「タイトル：副題」編集者名（編または編著）『所収書誌タイトル：副題』（所収ページ）．出版社.

久米昭元（2001）．「集団・組織内の意思形成試論」石井敏・久米昭元・遠山淳（編著）『異文化コミュニケーションの理論：新しいパラダイムを求めて』（177-188 頁）．有斐閣.

大堀壽夫（2002）．「談話・認知・文化」『認知言語学』（203-223 頁）．東京大学出版会.

櫻井千佳子（2003）．「日英語における初期語彙習得の相違：指示的対表出的の観点から」片岡邦好・井出祥子（編）『文化・インターアクション・言語』（179-194 頁）．ひつじ書房.

単行本に収録されている論文が，再録された論文の場合で，原著の出版年がわかっている場合には，原著の出版年を [　] で下記の通り示す。勿論，所収ページ数については，再録されている単行本のページ数を明記すればよい。

著者名（発行年[原著の出版年]）．「タイトル：副題」編集者名（編または編著）『所収書誌タイトル：副題』（所収ページ）．出版社.

Bennett, M. J. (1998[1966]). Overcoming the golden rule: Sympathy and empathy. In M. J. Bennett (Ed.), *Basic concepts of intercultural communication* (pp.

191-214). Intercultural Press.

【論文】

1. 学術論文（学術書誌，学会誌，一般学術誌などに掲載されている論文）

主要学術誌（『思想』など）および主要学会誌の場合，一般には刊行者名（出版社や学会名）を省略する。また，一般誌（『月刊言語』，『英語教育』など）の場合には，末尾に出版社名を明記する。

著者名（発行年）．「論文タイトル：副題」『所収書誌タイトル』第＊巻（**or** 第＊号 **or** 巻号併記），所収ページ．出版社．

北山忍・唐澤真弓（1995）．「自己：文化心理学的視座」『実験社会心理学研究』第 35 巻，第 2 号，133-163 頁．

Maalej, Z. (2004). Figurative language in anger expressions in Tunisian Arabic: An extended view of embodiment. *Metaphor and Symbol*, *19*(1), 51-75.

佐々木裕一（2003）．「インターネット文化は合理性をもって語れるか？」『月刊言語』第 32 巻，第 5 号（2003 年 5 月号），66-67 頁．大修館書店．

2. 紀要掲載論文

大学等の研究機関が刊行する紀要に掲載された論文の基本形式は以下の通り。

著者名（発行年）．「論文タイトル：副題」『所収書誌タイトル』第＊号，所収ページ．紀要刊行機関名．

結城正美（2004）.「エコクリティシズム――文学と環境のインターフェイス」『異文化コミュニケーション論集』第 2 号，55-64 頁．立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科.

3. 学会発表論文集所収論文

学会などでの口頭発表と同時に刊行された発表論文集や予稿集に所収されている論文の形式は以下の通り。

著者名（発行年）．「論文タイトル：副題」『所収書誌タイトル』所収ページ．刊行機関名．

村田和代（2004）．「語用論的知識の演繹的提示の有効性 ―― ポライトネスストラテジーの指導を通して」『第 13 回大会発表論文集』62-65 頁．社会言語科学会.

4. 未刊行論文（博士論文・口頭発表論文・講演会資料など）

未刊行の博士論文，修士論文，学会発表論文などについては以下の通り。

著者（発表者）名（発行または発表年月）.『論文タイトル：副題』［二重かぎ括弧使用に注意］論文提出機関名論文種別（または発表学会大会名，於・開催機関名）.

伊集院郁子（2001）．『母語場面及び接触場面におけるスピーチスタイルの分析 ―― ポライトネス理論の観点から ――』東京大学大学院修士論文［未刊行］.

小林亮（2004.5）．『異文化間トレランスの形成に関する発達心理学的考察』第 25 回異文化間教育学会大会口頭発表，於・同志社大学.

直接発表を聴いたのではなく，ウェブサイト上から口頭発表論文や講演の資料を入手して使用した場合には，後述の「5. ウェブサイト上の電子媒体資料」の書式に準じる。

5. ウェブサイト上の電子媒体資料

電子データ（PDF，DOC ファイル等）やウェブページ（HTM, HTML 等）で公表されている論文および資料の場合には，書誌情報の後に入手可能なウェブサイトの URL とサイトへのアクセス日を記載する。URL の末尾には**ピリオドを打たない**。URL のリンク線は削除すること。ウェブページの無署名記事を引用する場合には，URL のほかに，書誌情報の代わりとしてウェブサイト提供者名（もしくは提供機関名）と「ウェブサイトの項目タイトル」を明記する。

著者名（発表年月）．［紙媒体に準じる書誌情報を記載］．
年月日 **URL**

中山康雄（2002）．「行為としての発話」『大阪大学大学院人間科学研究科紀要』第 28 巻，63-79 頁．大阪大学大学院人間科学研究科．2003 年 12 月 22 日 http://kisoron.hus.osaka-u.ac.jp/dataYN/Action.pdf

NTT ドコモ（2005）．「基本絵文字一覧」2005 年 3 月 30 日 http://www.nttdocomo.co.jp/p_s/imode/tag/emoji/list.html

坂本真樹（2001.5）．『認知言語学とその周辺』第 6 回人間コミュニケーション学研究会発表資料．2004 年 1 月 2 日 http://www.hc.uec.ac.jp/act/ken/k06/sakamoto0203.pdf

【辞書・事典】

1. 版記載不要の辞書・事典

版を記載する必要がない辞書・事典の基本形式については，以下の通り。

編者名（編）（発行年）．『タイトル』出版社.

辻幸夫（編）（2002）．『認知言語学キーワード事典』研究社.

編者が複数の場合には，編集主幹者・監修者を代表として挙げる。「監修」「編集主幹」などの表記は原則として原著に準じる。

小池生夫（編集主幹）（2003）．『応用言語学事典』研究社.

2. 版記載が必要な辞書・事典

版を重ねている一般的な辞書・事典の場合には，版によって記載内容が異なるため，タイトルの後に必ず版数を明記する。版数にはアラビア数字（半角）を用いる。

編者名（編）（発行年）．『タイトル』〔第＊版〕出版社.

新村出（編）（1999）．『広辞苑』〔第 5 版〕岩波書店.

3. 翻訳された辞書・事典

訳書を扱った場合には，訳書の書誌情報（**著者名はカタカナ表記**）を記した後に，全角大括弧［　］で原著の書誌情報を付す。原著の表記は APA Style に従う。基本形式は以下の通り。

編者名（編）（発行年）．『タイトル』〔第＊版〕（訳者名・訳）出版社.［原著：Last Name, Initial. (Year). *Title.*

Publisher].

ハートマン，R. R. K.・ジェームズ，G.（2003）.『辞書学辞典』（竹林滋・小島義郎・東信行・監訳）. 研究社. ［原著：Hartman, R. R. K., & James, G. (2001). *Dictionary of lexicography.* Routledge］.

クリスタル，D.（1992）.『言語学百科事典』（風間喜代三・長谷川欣佑・監訳）. 大修館書店. ［原著：Crystal, D. (1987). *The Cambridge encyclopedia of language.* Cambridge University Press］.

【新聞記事・雑誌記事】

新聞記事・雑誌記事の基本形式は以下の通り。紙媒体ではなくウェブサイト上で検索した新聞・雑誌記事を使用した場合には，掲載ページの後にウェブサイトの URL とサイトへのアクセス日を明記すること。URL と情報取得年月日の書式については，上述の「【論文】5. ウェブサイト上の電子媒体資料」を参照。

1. 新聞記事

筆者名（掲載年月日）. 「記事タイトル：副題」『掲載新聞名』朝刊／夕刊，掲載ページ.

阿部潔（2005.3.28）. 「情報社会は人々の結び付きをどう変えるか？ ── シリーズ＜現在＞への問い 第2部　地球サバイバル 第6回」『毎日新聞』夕刊，9 頁.

木戸哲・北川仁士・平田崇浩（2005.3.28）. 「ゆとり教育『評価せず』65％：見直し『反対』『慎重』56％　本社世論調査」『毎日新聞』朝刊，1-2 頁.

2. 雑誌記事

筆者名（掲載年月日）．「記事タイトル：副題」『掲載雑誌タイトル』第＊巻 or 第＊号，掲載ページ．出版社.

ホーランド，J. S.（2005.3）．「アイルランドの生命躍る豊かな海」『NATIONAL GEOGRAPHIC　ナショナル ジオグラフィック 日本版』2005 年 3 月号, 127-133 頁．日経ナショナルジオグラフィック社.

3. 無署名記事

新聞・雑誌・ニュースレターなどの記事で筆者名が明記されていないものについては，以下のように表記する。

「記事タイトル：副題」（掲載年月日）．『掲載新聞 or 雑誌 or ニュースレタータイトル』朝刊／夕刊 or 第＊号，掲載ページ．（出版社名は必要な場合に限る）.

「個人の能力より決定的な時代へ」（2005 年 3 月 30 日）．『朝日新聞・別刷り特集』朝刊，2 頁.

4. ウェブサイト上で検索した新聞・雑誌記事

「記事タイトル：副題」（掲載年月日）．『掲載新聞 or 雑誌 or ニュースレタータイトル』年月日 URL

「ダイオキシン汚染，複数微生物で浄化　三井造船開発」（2005 年 3

月 27 日）．『朝日新聞 asahi.com』2005 年 3 月 28 日 http://
www.asahi.com/science/news/TKY200503270042.html

【CD-ROM】

単行本の記載様式に準ずる。

【情報記載不可能な場合】

著者・編者・訳者や出版年，出版社が不明な場合には以下のように記載する。

著者・編者・訳者不明：氏名の代わりにそれぞれ「**著者不明**」「**編者不明**」「**訳者不明**」と記載する。

出版年不明：出版年の代わりに「**出版年不明**」と記載する。

刊行予定：出版予定年が判っている場合には（　）内に明記し，書誌情報の後に［**印刷中**］と付す。

未刊行：著作発表年を（　）で明記し，書誌情報の後に［**未刊行**］と付す。

出版社不明：出版社名の代わりに「**出版社不明**」と記載する。

引用部分の表記（Reference Citations in Text）

参考文献から文章を引用する場合には，必ず**典拠を明記すること**。また，本文中のどこからどこまでが引用なのかが判るように表記し，自分の論述部分と明確に区別すること。文献から引き写しておきながら典拠を明記せず，あたかも自分が書いたかのように装う行為は剽窃に当たる。

文章を引用する際には，**句読点**，**漢字表記**，**送り仮名に至るまで原著の表記を一字一句変えてはならない**。誤植などにより原著の表記が誤っている場合には**そのまま引き写し**，引用部分の最後に［**原文のまま**］と注記する。引用部分を傍点や下線等で強調した場合には，引用部分の最後に［**強調引用者**］と注記する。あらかじめ強調がなされている文章を引用する場合には，引用部分の最後に［**強調原文**］と注記する。

> ルーマン（1983）は，システム理論との関連のおけるパラダイム転換に論及し，2 つの重要な転換を炙り出している。まず，100 年程前の，「『全体と部分』の伝統的な差違は一挙に『システムとその周界領域』の差違と入れ替わる」（p. 6,［強調原文］）とする転換であり．．．

1. 本文に組み込む短い引用の場合

一文程度の短い引用を本文の中で使用する場合には，引用部分を「　」で囲む。

> 伊藤（1993，p. 7）によれば，慣用句は「形式的には，少なくとも 2 語以上」の語結合であり，「統語的，また意味的に，ひとつの統一体を形成し，語と同じような機能を持つ」と定義される。

> 慣用句の定義は研究者によって異なるが，本論では「形式的には，少なくとも 2 語以上からなり，統語的，また意味的に，ひとつの統一体を形成し，語と同じような機能を持つ」（伊藤, 1993，p. 7）語結合を慣用句と定義し，選定する。

2. 長い引用の場合

ある程度まとまった文章を引用する場合（3 行以上に及ぶ場合）には，**本文から段落を独立させ（引用の前後に 1 行挿入），左端を全角 2 文字分下げ**（インデント）て，表記する。尚，右端はインデントしない。

> 慣用句の定義は研究者によって異なるが，以下の定義がその基本概念となっていると言ってよいだろう。
>
> > 2 語またはそれ以上の語の結合で，（1）統語的・意味的規則性によってその結びつきが完全には説明できない統一体をなし，（2）その言語共同体においてひとつの語彙と同様に使用される語結合である。（Burger, Buhofer & Sialm, 1982, p. 1）［日本語訳引用者］
>
> この定義を基に，慣用句の定義は，広義と狭義の 2 つに大別される。ひとつは．．．

状況に応じて引用箇所の一部を省略する場合には，省略する部分を［**中略**］で表す。

> クニッゲは，この「人間交際術」の実際の効用について，以下のように述べている。

> 人間交際術とは，これを身につけていれば他人に羨まれることなく世間の人々から目に留められ，それなりの人物として通用し，尊敬される。［中略］自分を偽らず，他人の気性や認識，嗜好に歩調を合わせることができる。どのような人々との社交の場でも，無理せず話を合わせることができる。そのとき，自分らしさを失うということも，低俗なお世辞をいうこともない。（Knigge, 1977, pp. 23-24）［日本語訳引用者］

こういった部分から見てとれるのは，まず交際相手となる他者の存在である。クニッゲは常に他者の存在を意識する。またクニッゲが勧める交際術を．．．

3. 参考文献の情報のみを本文中に引用する場合

参考文献から文章を引用せず，情報として言及するのみの場合は以下の通り。

> 柿沼（1990，p. 5）によれば，応用言語学の歴史は意外に長い。

> 吉羽（2000）でも指摘されている通り，慣用句研究は，その定義が研究者ごとに異なり，統一されていないという問題点を抱えている。

複数の著者名を列挙する場合には，アルファベット順に著者名を列挙し，各著者名の間はセミコロン「；」で区切る。同一著者による同一出版年の文献が複数ある場合には、a, b, c で区別する（a, b, c は時系列が判明している場合には時系列に従い、判明できない場合には掲載順とする）。

> 慣用句は，定義や術語が研究者によって異なっている（Burger, 1998；Fleischer, 1997；伊藤，1999a, 1999b；Palm, 1995）。

論文表紙に関する英文スタイル

提出する修士論文（または博士論文）の表紙（中表紙含む）に記載する際の英文タイトルの capitalization は，APA Style に従い以下の通りとする（詳しくは，*Publication manual of the American Psychological Association* の最新版を参照のこと）。

Capitalization

- タイトルのはじめの文字および副題のはじめの文字
- タイトルに含まれるすべての内容語の語頭
- 4 文字以上の長さの前置詞の語頭
- ハイフンでつながれている内容語（両語）の語頭

具体例については，大学院紀要『異文化コミュニケーション論集』の最後尾に記載されている当該年度の修士論文・博士論文題目一覧を参照のこと。

【The Rikkyo Style 文献リスト サンプル】

日本語以外の文献がある場合も，著者のアルファベット順に混在させて列記する。以下のサンプルには, 立教スタイルおよび APA スタイルがほぼ網羅的に示されているので, 参考にすること。

参考文献

阿部潔（2005.3.28）．「情報社会は人々の結び付きをどう変えるか？ ── シリーズ＜現在＞への問い 第 2 部　地球サバイバル 第 6 回」『毎日新聞』夕刊, 9 頁.

Andrews, K., & Curtis, M. (1998). *A changing Australia: The social, cultural and economic trends facing Australia.* Federation Press.

バイアー，O.（2003）．『ヨーハン・ゲオルク・ハーマン：根元的な啓蒙を目指して』（宮谷尚実・訳）．教文館．［原著：Bayer, O. (1988). *Zeitgenosse im Widerspruch. Johann Georg Hamann als radikaler Aufklärer.* Piper］.

Bennett, M. J. (1998[1966]). Overcoming the golden rule: Sympathy and empathy. In M. J. Bennett (Ed.), *Basic concepts of intercultural communication* (pp. 191-214). Intercultural Press.

クリスタル，D.（1992）．『言語学百科事典』（風間喜代三・長谷川欣佑・監訳）．大修館書店．［原著：Crystal, D. (1987). *The Cambridge encyclopedia of language.* Cambridge University Press］.

「ダイオキシン汚染，複数微生物で浄化　三井造船開発」（2005 年 3 月 27 日）．『朝日新聞 asahi.com』2005 年 3 月 28 日 http://www.asahi.com/science/news/TKY200503270042.html

ハートマン，R. R. K.・ジェームズ，G.（2003）．『辞書学辞典』（竹林滋・小島義郎・東信行・監訳）．研究社．［原著：Hartman, R. R. K., & James, G. (2001). *Dictionary of lexicography.* Routledge］.

ホーランド，J. S.（2005.3）．「アイルランドの生命躍る豊かな海」『NATIONAL GEOGRAPHIC　ナショナル ジオグラフィック 日本版』2005 年 3 月号，127-133 頁．日経ナショナルジオグラフィック社.

伊集院郁子（2001）．『母語場面及び接触場面におけるスピーチスタイルの分析 ── ポライトネス理論の観点から ──』東京大学大学院修士論文［未刊行］.

Kauffman, J. M., & Burbach, H. J. (1998). Creating classroom civility. *Education Digest, 63*(1), 12-18.

木戸哲・北川仁士・平田崇浩（2005.3.28）．「ゆとり教育『評価せず』65％：見直し『反対』『慎重』56％　本社世論調査」『毎日新聞』朝刊，1-2 頁.

北山忍・唐澤真弓（1995）．「自己：文化心理学的視座」『実験社会心理学研究』第 35 巻，第 2 号，133-163 頁.

小林亮（2004.5）．『異文化間トレランスの形成に関する発達心理学的考察』第 25 回異文化間教育学会大会口頭発表，於・同志社大学.

小池生夫（編集主幹）（2003）．『応用言語学事典』研究社.

「個人の能力より決定的な時代へ」（2005 年 3 月 30 日）．『朝日新聞・別刷り特集』朝刊，2 頁.

久米昭元（2001）．「集団・組織内の意思形成試論」石井敏・久米昭元・遠山淳（編著）『異文化コミュニケーションの理論：新しいパラダイムを求めて』（177-188 頁）．有斐閣.

レイコフ，G.・ジョンソン，M.（1986）．『レトリックと人生』（渡部昇一・楠瀬淳三・下谷和幸・訳）．大修館書店．［原著 : Lakoff, G., & Johnson, M. (1980). *Metaphors we live by.* University of Chicago Press］.

Maalej, Z. (2004). Figurative language in anger expressions in Tunisian Arabic: An extended view of embodiment. *Metaphor and Symbol*, *19*(1), 51-75.

松本裕治・永田昌明・徳永健伸・影山太郎・斎藤洋典（2004）．『単語と辞書』岩波書店.

村田和代（2004）．「語用論的知識の演繹的提示の有効性 ── ポライトネスト

ラテジーの指導を通して」『第 13 回大会発表論文集』62-65 頁．社会言語科学会.

Murray, S. O. (1983). *Group formation in social science.* Linguistic Research.

中山康雄（2002）．「行為としての発話」『大阪大学大学院人間科学研究科紀要』第 28 巻，63-79 頁．大阪大学大学院人間科学研究科．2003 年 12 月 22 日 http://kisoron.hus.osaka-u.ac.jp/dataYN/Action.pdf

新村出（編）（1999）．『広辞苑』〔第 5 版〕岩波書店.

野田研一（2003）.『交感と表象：ネイチャーライティングとは何か』松柏社.

NTT ドコモ（2005）．「基本絵文字一覧」2005 年 3 月 30 日 http://www.nttdocomo.co.jp/p_s/imode/tag/emoji/list.html

大堀壽夫（2002）．「談話・認知・文化」『認知言語学』（203-223 頁）. 東京大学出版会.

Reuters Health. (1999, October 26). *Chinese herbal medicines gaining acceptance in West*. http://www.acupuncture.com/ News/Reuters_Health_NY.htm

Rogers. E. M., & Hart, W. B. (2002). The histories of intercultural, international and development communication. In W. B. Gudykunst, & B. Mody (Eds.), *Handbook of international and intercultural communication* (2nd ed.) (pp. 1-18). Sage.

坂本真樹（2001.5）．『認知言語学とその周辺』第 6 回人間コミュニケーション学研究会発表資料．2004 年 1 月 2 日 http://www.hc.uec.ac.jp/act/ken/k06/sakamoto0203.pdf

櫻井千佳子（2003）．「日英語における初期語彙習得の相違：指示的対表出的の観点から」片岡邦好・井出祥子（編）『文化・インターアクション・言語』（179-194 頁）．ひつじ書房.

佐々木裕一（2003）．「インターネット文化は合理性をもって語れるか？」『月刊言語』第 32 巻，第 5 号（2003 年 5 月号），66-67 頁．大修館書店.

ソシュール，F. de.（1986）．『一般言語学講義』〔改版〕（小林英夫・訳）．岩波書店．［原著：Saussure, F. de. (1916). *Cours de linguistique générale.* Payot］.

Stivens, M. (1998). Modernizing the Malay mother. In K. Ram & M. Jolly (Eds.), *Maternities and modernities: Colonial and postcolonial experiences in Asia and the Pacific* (pp. 50-80). Cambridge University Press.

鈴木孝夫（1999）．『ことばと文化：私の言語学』岩波書店.

辻幸夫（編）（2002）．『認知言語学キーワード事典』研究社.

Wittgenstein, L. (1949). *Tractatus logico-philosophicus.* Routledge & Kegan Paul.

山梨正明・有馬道子（編著）（2003）．『現代言語学の潮流』勁草書房.

結城正美（2004）．「エコクリティシズム――文学と環境のインターフェイス」『異文化コミュニケーション論集』第 2 号，55-64 頁．立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科.